



谷 祐康

健康を守る。少々形は悪くても新鮮で農薬の害の心配のない野菜は、家族みんなに野菜の本当のおいしさを教えてくれる。

無精な私でも四季を通じ

「人生には楽園が必要だ」
心からいいなと思える充実した時間を過ごしたい…そんな自分だけの「人生の小さな楽園」。農園での野菜作りは私には生活のビタミン剤だ。自分の畑を見回りながら野菜と語り合う。大根、白菜、人参、キャベツたちの「水が欲しい」「肥料が欲しい」「害虫を退治して欲しい」などの声が聞こえてくる。野菜作りは、私たちがともすれば生活の中で忘れがちになる土の匂いや、生命の神秘さと躍動感を感じさせてくれる。ストレス解消になるばかりでなく、手作り野菜は家族の

て、1区画(50㎡)で3種類以上の野菜を作ることが出来る。こんな小さな区画の畑であるが、収穫のあとの耕作、雑草取り、水撒きなどはかなりの重労働だ。でも心地よい疲労だ。自然回帰が叫ばれている今日、あなたの余暇を野菜づくりで過ごされたらどうだろう。「暇がない」「嫁が許してくれない」などと手をこまねいているあなた、私が説得してあげましょうか…でも、やっぱり嫁は手強いし恐いよなア。ふるさと村恒例の収穫祭も盛況のうちら終わった。農園はこれから静かに冬を迎える。



岩田 恪夫

野菜づくりも冬は一段落。この間の畑は骨休め……も良いのですが、この時期にじっくり土づくりに取り組んでみませんか。実は、野菜づくり以上に大切なのが土を育てることです。

まずは、天地返しから。冬の間スコップで土を掘

り返して寒さや風、太陽にさらすと害虫の卵や病原菌、雑草の根などが死滅するし、土が凍ってふわふわの土になるのです。

春先の植え付けや種まき苗に散布する堆肥づくり。堆肥の原料は落ち葉や畑から出る野菜くずなどを米ぬかや鶏糞と混ぜて適度の湿度で発酵させた腐葉土。春に施す肥料が1年分の野菜の栄養になるからです。

「神付ふるさと村」では今の時期、落ち葉を発酵さ

せて、堆肥をつくったり、EM菌によるぼかし肥料をつくるグループや、籾殻を燃やして燻炭をつくる人など、それぞれが思い思いに土づくりに精を出しているのを見かけます。こうして育てた野菜はたっぷりのミネラルを含んで美味しいこと間違いなし。

どうもうまく野菜が出来ないなあと悩んでいる人、今からでも遅くない、一度土づくりから始めてみませんか。



谷 祐康

今年はずいぶん寒い日が続いてきたが、ようやく本格的な春がやってきたようだ。

4月の異称は「卯月」。『うづき』はナエウエヅキ(苗植月)が転訛したともいわれており、まさに農園では、豊富な種類の苗を植えるのに最適な季節の到来である。

いものである。しかし、野菜作りには、悩みや苦勞も付き物である。寒さで発芽した芽が枯れそう、水が足りない、雑草の刈りとら、害虫の駆除などなど。

こうした戦いが種を蒔いたその日から、雨の日も風の日も、毎日続く。手がかかればかかるほど甘美で、美味しい。作っ

た者にしか分らない、深い味わいがある。私が野菜作りに挑戦したのは五年前。今では、その魅力にどっぷり浸かっている。「物臭で怠け者」と家人から決めつけられているが、野菜作りだけには、少しばかり感謝されているようだ。